

令和6年度 学校関係者評価書

北海道小樽潮陵高等学校 定時制課程

1 学校教育目標

社会に関われ信頼され、生徒が生き生きと活動する学校づくりをめざし、次の資質・能力を目指して教職員が協働して教育に取り組む。
(1)基礎・基本を身に付け自ら学ぶ
(2)社会性、公共性に富み地域社会を理解し地域に貢献する。
(3)豊かに人間性を備え心身ともに健やかである。

2 重点事項

(1)生徒募集:本校の魅力を発信する機会の充実を図り、生徒募集に努める。
(2)授業の改善:基礎的・基本的な知識及び技能の習得の上に、ICTを活用して知識・技能を活用する授業を行い、課題設定/情報収集/整理・分析/まとめ・表現の探究活動を行うよう努める。
(3)学校情報の発信:各種たよりや学校HPなどを通して、三修制やきめ細かな少人数指導などの特色を発信する。
(4)働き方改革の推進:会議や業務の見直しによる勤務時間の縮減など、働き方改革を推進する。
(5)基礎学力の定着:学びの基礎診断や学力テストなどの活用や読解活動を通して、社会で求められる基礎学力の定着を図る。
(6)教育相談の充実:日常的な教育相談と相談週間における教育相談の充実を図る。

3 自己評価結果 「A=十分である」、「B=おおむね十分である」、「C=不十分である」、「D=改善を要する」

分野・領域	評 価 の 項 目		達成 状況	取組の 適切さ	改 善 の 方 策	自己評 価の適 切さ	改善に 向けた 取組の 適切さ
教育目標 重点項目	1	「学校教育目標」は教育活動全体の指標として適切である	A	B	・「達成目標と方策」が学校課題解決の指標となっているかを検証しながら、教育活動に取り組む。 ・4年が経過することを踏まえ、再定義したスクール・ミッションを確認し、達成状況を把握していく。 ・教員の学校経営参画意識をより高めることにつながるよう、面談などを通じ、適材適所の配置をすすめる。	A	A
	2	「達成目標と方策」は学校課題の解決を図る指標となっている					
	3	「スクール・ポリシー(3つの方針)」に基づいた教育活動の充実に取り組んでいる					
	4	「重点項目」は分掌などの計画に活かされ具現化が図られている					
評価者の意見など・自己評価結果の内容の適切さから、今後の改善の方策もおおむね適切であると評価する。今後も生徒や保護者等の声ををていねいにひろいあげながら達成目標の実現に取り組んでほしい。							
学習指導 教育課程 研 修	5	個々の生徒の学力や個性に応じ、生徒一人一人を伸ばす指導の工夫に務めている	B	B	・基礎力診断テスト実施も定着し、生徒個々の実態を客観的に把握し、個別の指導に活かす環境も定着してきた。今後は道教委が実施するCBA学力テスト等の導入も検討する。 ・個々の到達状況に応じた学び直しをねらいとする学校設定科目『on-time』の指導内容の充実を図る。 ・新カリにおける指導と評価の一体化を確	B	A
	6	生徒自らの意欲を育てる指導、生徒を動かす授業の充実を図っている					
	7	地域、学校、生徒の実態に即した教育課程の編成と運営に務めている					
	8	校内研修の内容・方法は適切で充実が図られている					
評価者の意見など・自己評価結果の内容がおおむね適切であることから、今後の改善の方策もおおむね適切であると評価する。引き続き一人一人の到達状況に応じたわかりやすく細やかな学習指導に取り組んでほしい。							
生徒指導 生徒会活動 安全教育	9	生徒の実態を把握した適切な生徒指導を行っている	B	A	・生徒の実状、保護者等の考え方、地域の状況などを踏まえた生徒指導を行うとともに、生徒が主体的に考え、判断する場面を意図的に多く設ける。 ・HR活動や全校行事、各種安全教育等に関しては、制約ある環境下で可能な内容の工夫に努め計画的に実施する。	B	B
	10	HRや全校行事などへの取組を通じ、HRの活性化や生徒の成長を図っている					
	11	安全への意識を高める教育の充実を図っている(交通安全・防犯・薬物乱用防止等)					
評価者の意見など・個別面談の充実など少人数教育の利点を活かすことで自己指導能力やコミュニケーション能力を高める取組をすすめてほしい。自己評価結果の内容はおおむね適切であり、今後の改善の方策も適切であると評価する。							
進路指導 保健指導	12	各自の高校生活の中で完結するよう個に応じた進路指導の推進を図っている	B	B	・少人数教育の利点を活かし、自己指導能力やコミュニケーション能力を身につけさせ、自己実現につなげる。 ・外部機関に加えOBなどの協力を得て、講話などの機会と内容の充実を図る。 ・個々の生徒の状況に応じ、生きた情報収集と情報提供の充実を図る。	B	A
	13	家庭・地域・HR担任との連携(職場訪問・三者懇談)を密に、進路指導を進めている					
	14	主体的に進路を選択できるように計画的な指導が進められている					
	15	保健行事、日常の学校保健活動を通じ、心身の自己健康管理能力育成を図っている	B	A	・個々の心身の自己管理能力育成を図る方策について組織的な取組の充実を図る。 ・関係機関との連携を深めるとともに、情報の共有化を図る。	B	A
	16	関係機関との連携を図り、心の健康や性に関する指導がすすめられている					
評価者の意見など・生徒一人ひとりとよく意思疎通を図り、手をかけ、寄り添う教職員の姿が見える。自己評価結果から、今後の改善の方策もおおむね適切と評価する。							
その他	17	学校課題に対する方針が明確で仕事が理解されて進められている	A	B	・日常的な協議や相談機会の充実と、取組の具体化を見越した協働体制作りを図る。 ・生徒理解のための研修の充実に加え、日常的な情報共有により相互理解の推進を図る。 ・学校いじめ防止基本方針に基づく組織的な未然防止や早期発見の取組を一層すすめるとともに、定期的な見直しを行う。	B	B
	18	指導において生徒の人格が尊重されるとともに、各場面で教育相談の充実が図られている					
	19	いじめについて未然防止や早期発見に努めるなど適切に取り組まれている					
	20	勤務時間の縮減が進み、休暇などが取得しやすい環境になっている					
評価者の意見など・「学校が落ち着いており、安心できる」との生徒、保護者の評価を評価する。自己評価結果から、改善の方策もおおむね適切であると評価する。							